



生物多様性を考える対話プラットフォーム — APN国際セミナーからCBD COP10へ向けて —

アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (Asia-Pacific Network for Global Change Research, APN) は、平成18年度から20年度の3年間に、県民のみなさんを対象に、生物多様性をテーマとした国際セミナーを、兵庫県、西太平洋・アジア地域の生物多様性ネットワーク (DIWPA) とともに開催してまいりました。

私たちの日々の生活は、豊かな生物多様性に大きく依存しています。農業や漁業による食糧の確保だけでなく、新しい薬品の開発や森林の炭素貯蔵力、また健康な生活の心理的側面に欠かせない癒しの機能などをあげることができるでしょう。



今年の10月に愛知県名古屋市で開催予定の生物多様性条約第10回締約国会議 (CBD COP10) では、これまでの環境保全の取組み、生物多様性が直面している危機等を背景に、全世界が力を合わせて取り組んで行かなければならない課題を議論します。私たち一人一人も無関心ではいられない重要な問題です。皆さんが日々の生活において生物多様性から得る恩恵について理解し、健全な生態系を保全していくために行動するにあたり、APNが開催したセミナーの成果が役立てば幸いです。

APN国際セミナー「生物多様性の保全による持続可能な社会の達成をめざして」

開催日：平成19年2月3日（土）午前10時30分～午後5時30分

場所：兵庫県立美術館 ミュージアムホール



人間社会の発展は、生物多様性がもたらす恩恵・サービスに大きく依存している。無秩序な経済活動（森林の過伐採、資源の無駄使い、大気や水の汚染、土地利用の変化等）は、自然の恩恵・サービスを提供する能力を著しく低下させ、豊かな自然と生物多様性の保全には不可欠な持続可能な社会の構築を不可能にしてしまう。

生物多様性（動物だけを考えがちだが、生態系とは生物を取り巻く無機質な環境すべてを含む）と豊かな人間社会を両立するためには、社会経済的側面にも注目しつつ自然との共生を考えなくてはならない。世界遺産では「文化的な景観 (Cultural Landscapes)」が大きなテーマになっているが、我々の先人はこれを成し遂げてきた。持続可能な社会の達成を考えると、身近なところにある、このような「自然と人間社会の共生」に学べることは多い。

アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN) は1999年8月以来その事務局を神戸市に置く政府間ネットワークで、アジア太平洋地域において地球環境の変化について研究と科学者の能力開発を促進する目的で設立されました。現在、22ヶ国が加盟しており、生物多様性の喪失、気候変動、土地利用形態の変化などの様々なテーマの研究・能力開発活動を支援しています。日本環境省や米国科学財団とともに、兵庫県からも多くのご支援をいただいております。

兵庫県等との共催のもと実施した国際セミナーの内容について、詳細な情報をご希望の方は、下記 APNセンターへご連絡下さいますようお願い申し上げます。

アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN) センター
〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター東館 4F

電話：078-230-8017 ファックス：078-230-8018

Email: info@apn-gcr.org; Website: <http://www.apn-gcr.org>



APN国際セミナー「地球温暖化と生態系・生物多様性の変化：変わりゆく生態系にどのように向き合うか？」

開催日：平成19年12月2日（日）午前10時30分～午後5時30分
場所：兵庫県立美術館 ミュージアムホール

温室効果ガスの排出による気候変動や温暖化は、地球規模の問題として世界のあらゆる場所で確認されている。例えば、海水温度の上昇に伴うサンゴ礁の白化による減少や降水量激減によるモンゴルの河川の消失（全体の15%の河川が1995年以降消失）等の報告がある。

このように実際に起こっている変動に向き合うには適切な対応策が不可欠であり、市町村の地域行政単位から国家レベルに至る取組が欠かせない。

効果的な対応策には、科学研究による知見が対策の策定過程に早々かつ正しく提供されることが重要であり、このためには国際社会全体の貢献と取組の協力が必須である。また我々一人一人も問題意識を持ち、適切な行動をとらなければならない。



APN国際セミナー「生物多様性と人との調和及び共生を目指した自然共生社会」

開催日：平成21年2月1日（日）午後1時～午後5時

場所：兵庫県立美術館 ミュージアムホール

生物多様性を保全しつつ、持続可能な社会がもたらす豊かな生活を実現するためには何が必要か。我々人間は食糧、繊維、水、エネルギー、空気といった欠かせざる物質を生物多様性から得ている。また、豊かな自然の中に見出す美的価値は文化の大事な一部をなしている。ところが我々はこの本質的な価値に気づかず、経済においても高効率な生産と引き換えに自然の破壊を深刻化させている。

このような悪循環を打破する、自然との調和と共生を試みる取組が進められている。兵庫県豊岡市のコウノトリをめぐる保全に関しては、昔ながらの稲作とこれに伴う手間と費用の増加に対して、地域社会全体がコウノトリ生息から得る経済効果の、ミクロ・マクロ両面について学んでいる。

タイ南部のナラティワット県のサイチョウの里親制度では、不法侵入と密猟により絶滅の危機にあったサイチョウが、元密猟者や森林の元不法伐採者によって保護される取組が進められている。サイチョウの生息がもたらすマクロ経済効果に注目しつつ、伝統文化の保全と美的価値の再評価も達成したすばらしい取組であり、こうした報告を参考に、我々の自然との共生を目指していく活動に結びつけていきたい。

APN支援機関・団体



Ministry for the
Environment
Manash Mō Te Taiao



United States
Global Change
Research Program

